

## 第 10 節 水生生物（淡水魚類）

### 第 1 項 調査概要

評価書の調査地点のうち計画地に近い 2 地点において、淡水魚類生息確認調査を実施した。

#### 1 - 1 調査年月日及び調査内容

調査年月日及び調査内容は、表 10 - 1 に示したとおりである。

表 10 - 1 調査年月日及び調査内容

時 季	調査年月日	調査内容
春 季	平成 13 年 5 月 9 日	捕獲調査、目視観察調査、 任意調査
夏 季	平成 13 年 8 月 17 日	
秋 季	平成 13 年 11 月 14 日	
冬 季	平成 14 年 1 月 23 日	

#### 1 - 2 調査地点

調査は、図 10 - 1 に示した 2 地点（評価書の調査地点 P.1、P.2）で実施した。

#### 1 - 3 調査方法

##### 1 - 3 - 1 捕獲調査

調査地点にカゴ網、セルビン各 2 個を設置して採集し、生息種の捕獲・確認を行った。

カゴ網、セルビンは 1 時間設置し、餌として市販の練餌及びサナギ粉を用いた。

##### 1 - 3 - 2 目視観察調査

岸边や橋上から目視により観察を行い、生息種の確認を行った。

##### 1 - 3 - 3 任意調査

上記の調査方法に加えて、調査地点周辺を、タモ網を用いて任意に採集し生息種の確認をする任意調査も実施した。

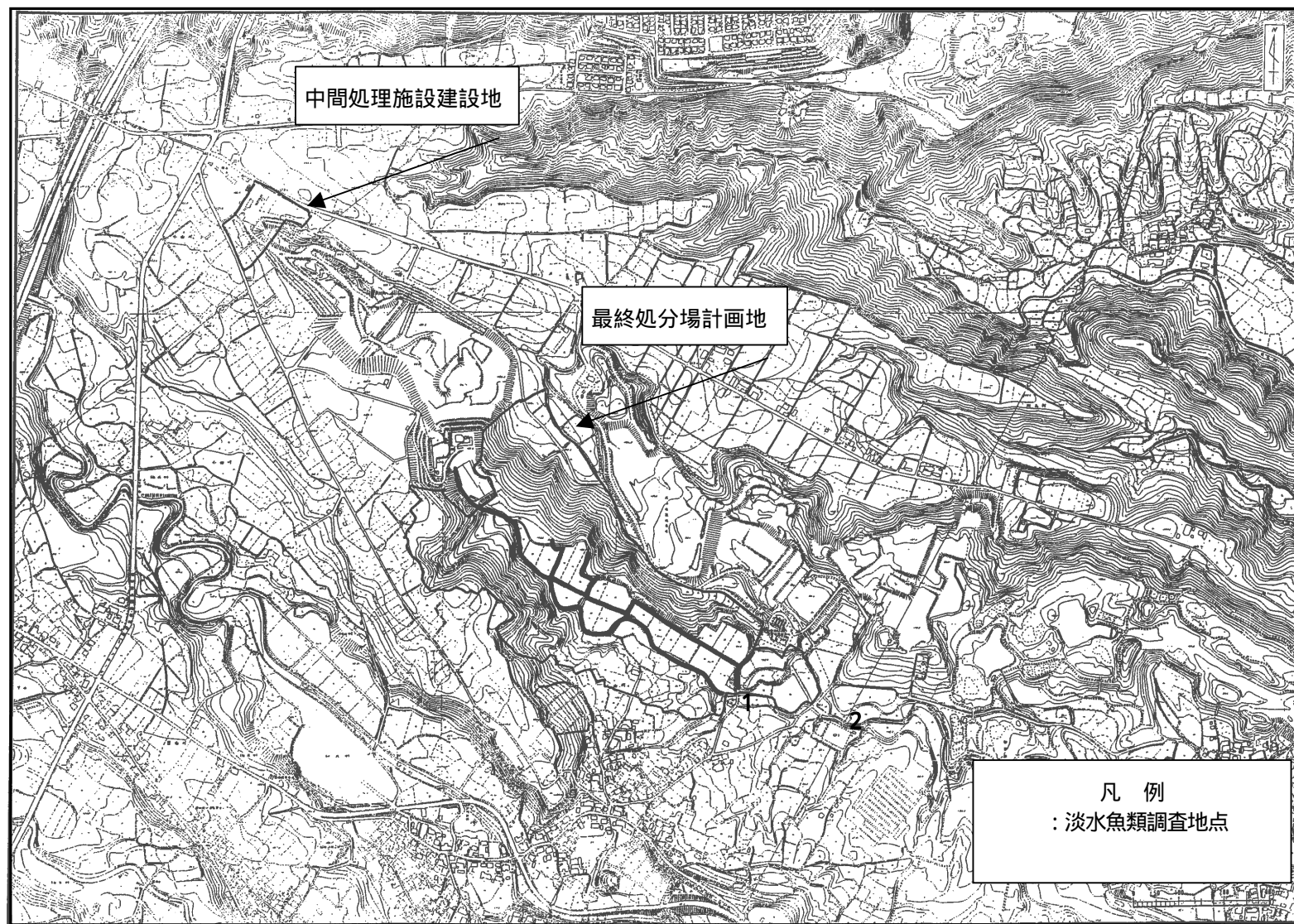


図 10 - 1 水生生物（淡水魚類）調査地点

## 第2項 調査結果

### 2 - 1 捕獲調査結果

カゴ網、セルビン、タモ網による捕獲調査により、表 10 - 2 に示したとおりカワムツ、タモロコ、ドジョウ、カワヨシノボリ、オイカワの 5 種の淡水魚類を確認した。

カゴ網による捕獲では、春季の P. 2 でカワムツ 1 種を、夏季の P. 2 でカワムツ、タモロコ、カワヨシノボリの 3 種を捕獲した。なお、P. 1 の各季及び P. 2 の秋・冬季には捕獲することはできなかった。

セルビンによる捕獲では、春季の P. 2 でカワヨシノボリ 1 種を、夏季には P. 1 でカワヨシノボリ、P. 2 でカワムツ、タモロコの 2 種を捕獲した以外は捕獲することはできなかった。

タモ網による捕獲では、P. 1 では各季ともカワヨシノボリ 1 種を確認した。P. 2 では各季ともカワムツ、タモロコ、カワヨシノボリ、オイカワの 4 種を確認した他、春・夏季にはドジョウも確認した。

表 10 - 2 魚類捕獲調査結果

調査方法	種 名	事後調査							
		春季		夏季		秋季		冬季	
		調査地点		調査地点		調査地点		調査地点	
		P.1	P.2	P.1	P.2	P.1	P.2	P.1	P.2
カゴ網	カワムツ		1		3				
	タモロコ				3				
	カワヨシノボリ				1				
	種 数		1		3				
	個 体 数		1		7				
セルビン	カワムツ				4				
	タモロコ				3				
	カワヨシノボリ		1	1					
	種 数		1	1	2				
	個体数		1	1	7				
タモ網	カワムツ								
	タモロコ								
	カワヨシノボリ								
	オイカワ								
	ドジョウ								
	種 数	1	5	1	5	1	4	1	4

注) タモ網による捕獲個体数は、その作業量に比例して多くなるため、種類のみの確認とした。

### 2 - 2 目視観察調査結果

各季に実施した調査では、P. 2 の夏季と秋季でカワムツ 1 種を、夏季に P. 2 でタモロコを確認した程度であった。特に P. 1 では各調査ともに魚影を確認することはできなかった。

### 第3項 まとめ

今回の調査では表 10 - 3 に示したとおり、2 目 3 科 5 種の淡水魚類を確認した。確認は、P. 2 で 5 種を確認したが、P. 1 ではカワヨシノボリ 1 種を確認しただけであった。P. 1 については、目視観察においても魚影を確認しておらず、P. 1 付近での魚類の生息数は少ないものと思われる。

表 10 - 3 魚類捕獲調査結果

目名	科名	種名		調査時季				調査地点	
				春季	夏季	秋季	冬季	P. 1	P. 2
コイ	コイ	オイカワ							
		カワムツ							
		タモロコ							
	ドジョウ	ドジョウ							
スズキ	ハゼ	カワヨシノボリ							
2 目	3 科	5 種	種数	1	5	4	4	1	5

また、今回の調査結果と表 10 - 4 に示した平成 12 年度の調査結果を比べてみると、平成 12 年度も P. 1 ではカワヨシノボリの 1 種を確認しており、今回の調査でも同様であった。

P. 2 では平成 12 年度は 5 種（オイカワ、カワムツ、タモロコ、ドジョウ、カワヨシノボリ）を確認しており、今回の調査でも同様 5 種を確認したことから、生息環境に大きな変化はないものと考えられる。

表 10 - 4 魚類捕獲調査結果（平成 12 年度の調査）

目名	科名	種名		調査時季			調査地点	
				夏季	秋季	冬季	P. 1	P. 2
コイ	コイ	オイカワ						
		カワムツ						
		タモロコ						
	ドジョウ	ドジョウ						
スズキ	ハゼ	カワヨシノボリ						
2 目	3 科	5 種	種数	5	4	3	1	5

## 第4章 事後調査の委託先

### 第1節 調査を委託した事業者の名称、代表者の指名及び主たる事務所の所在地

事後調査に関する業務の一部を委託した事業者の名称、代表者の指名及び主たる事務所の所在地は、下表に示したとおりである。

表 事後調査の一部業務の委託先

業務委託内容			事業者の名称等
地上気象 大気質			株式会社 応用地学研究所 三重営業所 所長 谷元 隆 三重県津市広明町1-1-2-5
大気質、地下水、土壌 (環境ホルモン、ダイオキシン類)			株式会社 東海テクノ 代表取締役 市田 興惣次 三重県四日市市午起二丁目4番18号
河川水	夏季：ダイオキシン類		財団法人日本食品分析センター名古屋支所 支所長 小原 一雄 愛知県名古屋市中区大須4丁目5番13号
	冬季	環境ホルモン	財団法人日本食品分析センター名古屋支所 支所長 小原 一雄 愛知県名古屋市中区大須4丁目5番13号
		ダイオキシン類	株式会社 島津テクノリサーチ 代表取締役 石田 泰夫 京都府京都市中京区西ノ京下合町1番地